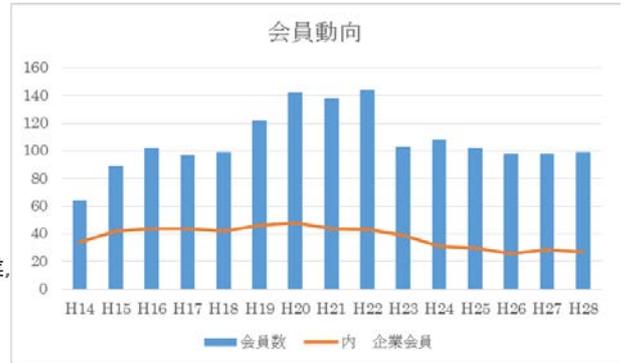
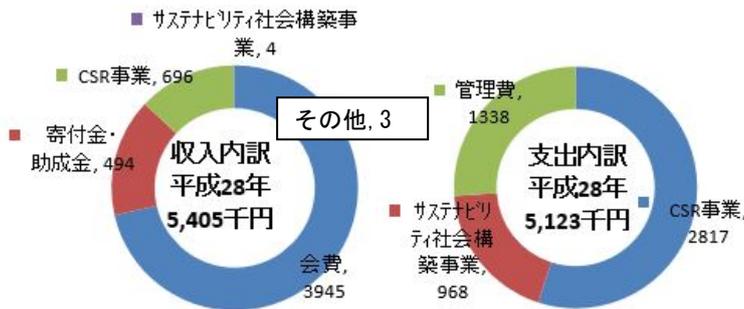


サステナビリティ日本フォーラム 平成 28 年度事業報告

(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

2017.1

会員動向



会員数は 99 (平成 28 年 12 月 31 日現在)。16 名の役員、24 名の評議員および 9 名の運営委員と専従職員は 1 名。平成 28 年度の入退会状況は、企業会員は 1 社入、2 社退 (1 社減)。個人会員は 9 名入、3 名退 (6 名増)。

事業概要

○:会員拡大を目指して一般にも開催 △:会員向けに開催 ※:新規取組み

対象者	サステナビリティに資する情報開示を促進し持続可能な社会を構築するためのプログラム		
	調査・研究	講座・座談会	レポート・発行物
CSR 部門担当者／サステナビリティ・CSR 志向の企業人／CSR の裾野を広げる取組みに関心を持つ人	△2050 インタビュー※ △長期目標設定プロセス研究 △長期志向に立った経営に関するアンケートの実施※ ○SDGs 指針に対するパブリックコメント※	○シリーズ勉強会 △役員向け CSR 講座 △CSR 基礎講座 ○シンポジウム △役員懇談会	○ラギー・フレームワーク △シリーズ勉強会レポート △ウェブサイト・会員専用ページ運営 ○メールマガジン
サステナブルな社会構築・地域創生に関心を持つ人	○海士町 再生可能エネルギー自給率向上の取組み	○「アロハ」総括シンポジウム※	

事業報告

1、企業の CSR 活動を啓発・促進する事業

満足度…アンケート回答で勉強会の内容について適切・概ね適切 80%以上を◎、60～80%を○、60%未満を△とする
シリーズ勉強会 テーマ「2030～2050 年のサステナビリティ社会を追求する」全 3 回

開催	タイトル	講師 (敬称略)	参加者数 (非会員)	満足度	アンケート回答率
4/21	総論「SDGs とパリ協定の意義、ESG 投資～2015 年の出来事から 2016 年を概観する～」	Sus-FJ、JSIF 後藤敏彦 高崎経済大学、JSIF 水口剛	23 (6)	◎	78%
7/6	各論「サステナビリティにおける国際的な動き：SDGs と金融安定理事会 (FSB) 気候関連財務ディスクロージャー・タスクフォース」	東京海上長村政明、 MSCI 鷹羽美奈子	28 (13)	◎	39%
10/20	各論「今さら聞けない IR・CSR 担当者向けの ESG 講座」	Sus-FJ、JSIF 後藤敏彦、NN インベストパートナーズ 上田敏	21 (5)	◎	52%

CSR 基礎講座

□…平成 27 年度から変更有

開催	タイトル	講師	参加者数 (非会員)	満足度	アンケート 回答率
3/23,5/27,7/27, 9/14,11/17	CSR 担当者のための CSR 基礎講座 全 5 回	金澤厚	24 (9)	◎	67%
9/16,10/14,11/18	役員・部長（室長）のための CSR 基礎講座 全 1 回	Sus-FJ 後藤敏彦	5 (2)	-	N/A

特別セミナー・ラウンドテーブル □…平成 28 年度新規取組み

開催	タイトル		参加数 (非会員)
4/27	「SDGs 勉強会～SDGs の最新動向とグローバル企業事例～」	慶応大学 蟹江憲史、 クレアン 水上武彦	27 (13)
10/27	「SDGs : 政府の指針へのパブリックコメントの会」	企業 5 社有識者 4 名	9 (3)
11/16	「SDGs に向けたデンマーク政府・企業の取組み」	ニールセン北村朋子	17 (3)

調査ならびに表彰制度への関わり等

長期的な視点で地球環境問題に取り組むためには将来の（ここでは 2030 年～2050 年としました）社会および社会的ニーズを想定することが必要との考えから、平成 26 年より未来データ&シナリオ研究会を実施。その派生プロジェクトとして、長期目標を掲げる企業の先行事例調査を平成 27 年度に実施し、低炭素杯事務局（実行委員長:小宮山宏）の理解を得て、COP21 に合わせて企画した低炭素杯 2016 「ベスト長期目標賞」の表彰制度にて 10 社、7 自治体を表彰した。2030～2050 年の長期目標を持つ企業群計 26 社を一覧にまとめて、会員の皆様にも閲覧できるように会員専用ページに掲載した。

SDGs : 政府の指針へのパブリックコメントを提出

10 月 27 日、企業 5 社の皆様と有識者 4 名にお集まりいただき、政府が募集した SDGs に向けた日本の指針、実施体制に対するパブコメの会を実施した。パブコメの会では、日本としてのビジョンを描いた上でオールセクターで課題を解決していく熱意が伝わる内容だと尚良いといったコメントが多数、出され 11 月 1 日にそれら意見を踏まえて提出した。

2、サステナビリティ社会構築に向けた調査・研究・支援事業

地域創生の星、海士町で再生可能エネルギー自給率向上を目指した取組み

開催	タイトル	講師（敬称略）
1/28	甦る離島、自然の宝庫 島、海、里山の未来を考える～離島の活性化と再生可能エネルギーの活用～	グリーンファイナンス機構 末吉竹二郎、海士町 松前一考、離島経済新聞 鯨本あつこ、海洋政策研究所 古川恵太、東京電力 戸田直樹、日本離島センター 小島愛之助 モデレーター：SMF 青木修三

インドネシアカカオツアー

これまで安く買い叩かれていたインドネシアのカカオの流通を持続可能なものへと変えようと取組む DariK との共催で 7 月、関係者含む 18 名とスラウェシ島を訪問するエコツアーを実施した。

3、サステナビリティレポートの国際標準をめざす GRI がガイドラインの普及・啓発事業

開催	タイトル	参加者（敬称略）
2/18	G4 マルチステークホルダー委員会を解散（1 月末）	富田秀実、後藤敏彦、金井司、園田綾子、町井則雄、安藤正行、阪野朋子（欠席）関正雄、川北秀人
6/10	GRI 国際会議報告兼スタンダード化の最新動向セミナー	富田秀実、三井住友信託銀行金井司、ニッセイアセット井口譲二、損保ジャパン後藤愛、185 名
7/7	GRI スタンダードパブコメの会	富田秀実 10 名

GRI スタンダード翻訳プロジェクト

GRI と覚書を締結し、Sus-FJ を日本窓口として翻訳プロジェクトを開始。ピアレビューコミッティーは、委員長に富田理事、CSO ネットワーク黒田氏、後藤代表理事の3名で構成されることとなり、プロジェクトへの協賛を募り、2017年4月に和訳版を発行する。GCNJ、予定として経済産業省、環境省がご後援くださることとなっている。

4、サステナビリティレポートに関する研究を推進し、国内外へ提言・提案を行なう事業

期間	タイトル	有識者（敬称略）
3月末迄	地球環境基金助成事業 2050年プロジェクト	寺中誠〇、富田秀実〇、水口剛〇、谷口正次、町井則雄、大石美奈子、谷達雄、加藤三郎、吉田喜貴、金山亮×、菅慶太郎× 〇…既に公開 ×…非公開希望

「長期視点に立った経営」に関するアンケートの実施

- ・企業の実務担当者の皆様（CSR、IR、経営企画など）100名
- ・企業の役員の皆様 6名

実務担当者向けアンケートと役員向けアンケートは、質問内容を変えて実施した。

<経営の時間軸について>

実務担当者の6割が、「自社の経営は長期視点に立って行われている」と認識

「長期視点」の時間軸として、最も多いのが「5年以上10年未満」

<長期的な企業価値向上における阻害要因>

最も多いのが「株主・投資家からの短期視点での要求」

役員の間では、「四半期決算の義務化」も同様に多い、といった回答が得られた。

広報活動

ウェブサイト（フェイスブックページ新設）・会員専用ページの刷新、メールマガジンの配信
配信数は全17号配信。購読者数は1,330名（+19名）。会員メールマガジンの配信数は全7回。

その他

役員懇談会（2回実施）

開催日	ゲストスピーチ（敬称略）	参加者数
1/7	SDGsと企業の役割 損保ジャパン日本興亜 CSR部シニア・アドバイザー関正雄	20
8/5	役員懇談会兼セコム中山様社長就任祝賀会	25

その時々的重要なテーマについてゲストを呼び、各界のCSR分野でご活躍の理事・評議員が情報交換、意見交換をする場を提供。

総会、理事・評議員会

開催日	総会、理事・評議員会	定足数	参加者数
2/25	第1号議案 総会決議事項 平成27年度事業報告および決算 第2号議案 理事会決議事項 平成28年度事業計画（案）および予算 第3号議案 評議員会決議事項 理事の選任 第4号議案 理事会決議事項 評議員の選任 第5号議案 理事会決議事項 運営委員の選任	総会31名（1/3以上） 理事会8名（1/2以上） 評議員会12名（1/2以上）	32

- ・認定NPO法人に向けた取り組み

認定NPO法人の要件を充たすために、寄付金（3,000円/1口以上）の募集と民間助成金への積極的な申請を行い、平成29年の認定を目指す。

- ・クラウド会計ソフトの導入（6月14日）

以上